

令和7年度

各室課・各公所主要施策

- 1 学校教育室 (P. 1 ～ 2)
- 2 保健体育課 (P. 3 ～ 4)
- 3 県立生涯学習推進センター (P. 5 ～ 6)
- 4 県立図書館 (P. 7 ～ 8)
- 5 県立博物館 (P. 9)
- 6 県立美術館 (P. 10)
- 7 県立青少年の家 (P. 11～14)
- 8 県立野外活動センター (P. 15)

(様式 2)

令和 7 年度主要施策 (概要)

公所名 学校教育室

1 重点施策について(重点事項や前年度からの改善点等)

項 目	内 容
岩手と世界をつなぐ人材の育成	小・中・高を通じた英語教育の推進や、コミュニケーション能力の育成を図る。
高校の魅力化	高校魅力化に取り組む関係機関との協働による高校魅力化及び小規模校の維持に向けて、魅力化アドバイザー等を配置し、市町村による地域連携コーディネーターの配置を促進し、地域連携コーディネーターの育成や活動支援を図るとともに、県立高校と市町村等関係機関との協働体制の円滑な運営を確立するもの。
いわての復興教育の推進	「いわての復興教育」副読本や伝承施設、県立図書館などを活用して教訓や経験を継承するとともに、自他の生命を守り抜く主体性を備え、復興・発展を支える地域の担い手の育成を推進する。
こころのサポートの充実	スクールカウンセラー等の配置、「心とからだの健康観察」の実施、教員研修の 3 点を柱として、幼児児童生徒のこころのサポートに引き続き取り組む。
いじめ問題・不登校対策	いじめ問題や不登校対策への組織的かつ適切な対処、自殺予防、関係機関との連携、児童生徒による取組の推進等、いじめ問題や不登校対策への対応に係る教員研修の充実や「いじめ問題解決支援チーム」の派遣等に取り組む。
就学前教育の充実	いわて幼児教育センターの 3 つの機能（「研修」、「訪問支援」、「調査研究・情報共有」）を生かし、公私立施設類型を越えて一体的に事業展開することで、就学前教育の充実と幼保小の円滑な接続を推進する。

2 事業計画について (重点事業 2～3)

領 域	事 業 名	趣 旨・内 容	期日・期間	対象・人数
岩手と世界をつなぐ人材の育成	・確かな学力育成加速化事業費 発信力強化による英語力向上事業	・イングリッシュワークショップ (参集型ワークショップ 1 回、オンライン型ワークショップ 1 回)	・参集型：6 月 ・オンライン型：1 月 (いずれも予定)	・CEFR A2 レベル(英検準 2 級相当)以上の英語力を目標とする児童生徒 ・定員は設けない
	・世界と岩手をつなぐ国際人材育成推進事業費 (国際室の事業費)	・北米派遣研修 外国語によるコミュニケーション能力の向上、本県の地域国際化、地域活性化、海外への発信等を推進するもの	未定 (令和 6 年度は 10/14～25 で実施)	・対象：高校生 ・人数：未定 (令和 6 年度は 8 名)
	・雲南省友好交流推進事業費 (国際室の事業費)	・中国雲南省派遣研修 友好交流協力協定に基づき、青少年の交流促進、本県の地域国際化、地域活性化、海外への発信等を推進するもの	未定 (令和 6 年度は 10/14～21 で実施)	・対象：高校生 ・人数：未定 (令和 6 年度は 16 名)

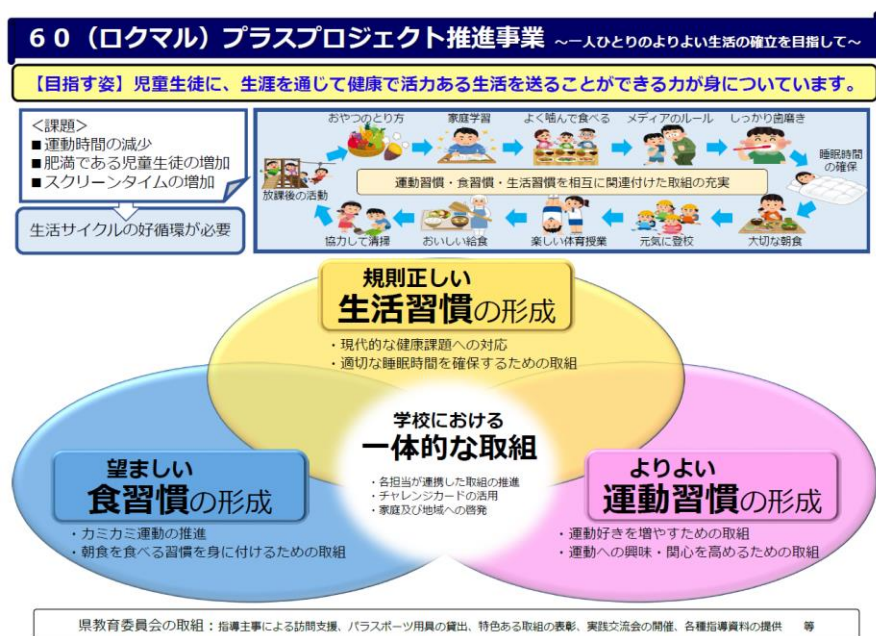
高校の魅力化	・いわて高校魅力化推進事業	協働体制推進事業 ・地域連携コーディネーターの配置・育成・活動支援 ・いわて留学の効果的な推進 ・県立高校の探究的な学び等の取組に対する伴走支援 ・WEB 配信サイト note の運営 探究共創事業 ・地域等の関係機関と連携・協働した探究的な学びの深化 ・地元小・中学校等との連携・接続強化、取組発信 ・コンソーシアムの運営	通年	全県立高等学校 60 校
いわての復興教育の推進	・いわての復興教育推進事業 ・学校安全総合支援事業	① いわての復興教育スクール ② 学校防災アドバイザー派遣事業 ③ 「震災の教訓を未来に語り継ぐ」期間の設定 ④ 児童生徒実践発表会 ⑤ 岩手県防災教育研修会	① 2/6 まで ② 2/6 まで ③ 3 月まで随時 ④ 1 月下旬 ⑤ 6/3	①②③ 全公立学校 ④ 児童生徒、教職員、保護者、一般等 ⑤ 管理職・主任層、市町村防災担当者等
こころのサポートの充実	・SC、SSW の配置	学校、教育事務所等に配置し、重層的な教育相談体制を充実させる。	通年	全校種の児童生徒
	・心とからだの健康観察	要サポート児童生徒を把握し、早期の支援につなげる。	8 月～9 月	全校種の児童生徒
	・こころのサポートに係る教員研修	SC を講師として、こころのサポートに係る教員対象の校内研修会を実施。	5 月～2 月	全校種の教員
いじめ問題・不登校対策	・いじめ問題・不登校対策に係る教員研修	・いじめ不登校特別研修（管理職・主任層、学級担任層）の実施 ・いじめ問題に係る事務所研修 ・学校等研修支援訪問	5 月 5 月～11 月 6 月～12 月	全校種の教員
	・いじめ問題解決支援チーム派遣	・解決困難ないじめ事案に対する訪問支援 ・「いじめ対応・不登校支援等アドバイザー」による支援	通年	学校及び教育事務所・市町村教育委員会
	・校内教育支援センター等体制整備事業	・市町村の校内教育支援センターの支援員の配置に係る経費を補助する。	通年	市町村教育委員会

(様式 2)

令和 7 年度主要施策 (概要)

公所名 保健体育課

1 重点施策について(重点事項や前年度からの改善点等)

項 目	内 容
・「よりよい運動習慣」の形成	・「60 (ロクマル) プラスプロジェクト」の推進 (継続) 児童生徒一人ひとりが自らの体力や健康に関心を持ち、生涯を通じて健康で活力ある生活を送ることができるよう、家庭や地域などと連携し、「よりよい運動習慣」「望ましい食習慣」「規則正しい生活習慣」の形成による健康の保持・増進に向けて、各習慣を相互に関連付けた一体的な取組を推進する。 【主な取組内容】 ・ チャレンジカードの活用による、3つの習慣を関連付けた取組みの推進。 ・ 優良実践校表彰及び実践発表会の開催。 ・ 指導主事派遣等による推進支援。 ・ ICT を活用した健康管理の調査や検討。
・「望ましい食習慣」の形成	
・「規則正しい生活習慣」の形成	 60 (ロクマル) プラスプロジェクト推進事業 ～一人ひとりのよりよい生活の確立を目指して～ 【目指す姿】児童生徒に、生涯を通じて健康で活力ある生活を送ることができる力が身についています。 ＜課題＞ ■運動時間の減少 ■肥満である児童生徒の増加 ■スクリーンタイムの増加 生活サイクルの好循環が必要 放課後の活動 → おやつとり方 → 家庭学習 → よく噛んで食べる → メディアのルール → しっかり歯磨き → 睡眠時間の確保 運動習慣・食習慣・生活習慣を相互に関連付けた取組の充実 協力して清掃 → おいしい給食 → 楽しい体育授業 → 元気に登校 → 大切な朝食 規則正しい生活習慣の形成 ・ 現代的な健康課題への対応 ・ 適切な睡眠時間を確保するための取組 学校における一体的な取組 ・ 各担当が連携した取組の推進 ・ チャレンジカードの活用 ・ 家庭及び地域への啓発 望ましい食習慣の形成 ・ カミカミ運動の推進 ・ 朝食を食べる習慣を身に付けるための取組 よりよい運動習慣の形成 ・ 運動好きを増やすための取組 ・ 運動への興味・関心を高めるための取組 県教育委員会の取組：指導主事による訪問支援、バラスポーツ用具の貸出、特色ある取組の表彰、実践交流会の開催、各種指導資料の提供 等

2 事業計画について（重点事業2～3）

領 域	事 業 名	趣 旨・内 容	期 日・期 間	対 象・人 数
児 童 生 徒 の 健 康 の 保 持 ・ 増 進 に 向 け た 対 策 の 充 実	・食育の推進 ・資質・能力向上研修	・食への理解促進や、家庭への望ましい食習慣等の啓発の実施 ・多様化・深刻化する子どもの健康課題に対応するための研修会を実施	・ 通年	・ 全校種
適 切 な 部 活 動 体 制 の 推 進	・自主的、自発的な活動の推進 ・学校部活動の地域クラブ活動への移行	・生徒の自主的、自発的な参加により行われる部活動を推進 ・「岩手県における学校部活動及び地域クラブ活動の在り方に関する方針」、「地域移行に向けた手引き」の周知や、全国で取り組んでいるモデル事業等の情報提供		・ 中学校 ・ 高等学校
安 全 で よ り よ い 教 育 環 境 の 整 備	・ 学校安全の推進	・学校施設等の安全点検による事故等の未然防止や、関係機関との連携による通学時の見守りや安全教育の推進 ・バス利用時の安全確保の推進 ・自転車乗車中のヘルメット着用など自転車の安全利用に向けた取組を推進		・ 全校種

(様式2)

令和7年度主要施策(概要)

公所名 生涯学習推進センター

1 重点施策について(重点事項や前年度からの改善点等)

項 目	内 容
領域(1) 学習情報提供・相談	○生涯学習情報提供システム(Web ページ)「まなびネットいわて」のコンテンツ(教育振興運動等)の充実と最新情報の提供、メルマガ配信数の増加に取り組み、広報紙及び電話対応と併せて、多様な情報提供と相談対応を行う。
領域(2) 調査・研究の推進	○『『博物館』の地域における社会教育的役割』と「居場所づくりと社会教育」について調査および実践的研究に取り組み、市町村や関係機関・団体の支援に努める。
領域(3) 指導者の養成・ 研修の充実	○市町村生涯学習・社会教育関係職員、家庭教育・子育て支援・地域づくり関係職員(教育委員会及び各部局関係職員)等の資質向上を図る。また、行政担当部局間及びNPO等支援団体関係者のつながりづくりに努める。 ○地域学校協働活動推進員(コーディネーター等)の研修の充実を通して、教育振興運動や地域学校協働活動等の学校と地域の連携・協働の推進を図る。 ○人・つながり・地域づくり、ICT活用、家庭教育・子育て支援、障がい者の生涯学習等の研修を通して、職員及び関係者の資質向上を図る。

2 事業計画について(重点事業2～3)

領 域	事 業 名	趣 旨・内 容	期日・期間	対象・人数
領域(1) 学 習 情 報 提 供・ 相 談	Web ページの管理 運用	○生涯学習情報提供システム(Web ページ)「まなびネットいわて」のシステム機能やコンテンツの充実及び有益な生涯学習情報の発信 ※R7目標値:年間6,000件 ○研修講座のオンライン配信(内容や目的に応じて) ○専用 Web ページの効果的活用(教育事務所等にも権限を付与。事業周知や参加申込、資料ダウンロード、視聴等)	年間	県民
領域(2) 調 査・ 研 究 の 推 進	調査研究	○『『博物館』の地域における社会教育的役割』1年次/2年研究 ○「居場所づくりと社会教育」1年次/2年研究	研究発表会 R8.1.29～30	生涯学習・社会教育、地域づくり関係者 100人
領域(3) 指導者の養成・ 研 修 の 充 実	子育て・家庭教育 セミナー1～3 放課後の子どもの 居場所指導者研修 会1～2	○子育て・家庭教育セミナー1「体験活動」 ○子育て・家庭教育セミナー2「発達障害と不登校の理解と支援」 ○子育て・家庭教育セミナー3「マルチリートメントを防ぐ子育て」 ○放課後の子どもの居場所指導者研修会1「子どもアドボカシー」 ○放課後の子どもの居場所指導者研修会2「性暴力から子どもを守る」	別紙参照	参集 +オンライン (無制限)

令和7年度

岩手県立生涯学習推進センター



子育て・家庭教育セミナーのご案内

3回継続しての参加をお勧めします!! どなたでも参加できます!!

6月19日(木) 子育て・家庭教育セミナー1

「すべての子どもに『体験活動』を!!!」

講師に公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン代表理事の今井悠介氏、株式会社盛岡書房代表取締役 高舘美保子氏、NPO法人みやっこベース 理事長 早川輝氏をお迎えします。講演とパネルディスカッションを通して、「体験格差」の実態（日本初の全国調査）やその解消に向けた実践を知り、自分の立場でできることを一緒に考えてみませんか？

◇会場◇岩手県立生涯学習推進センター オンライン同時開催（参加申込者限定オンデマンド配信有り）



10月3日(金) 子育て・家庭教育セミナー2

「子どもの可能性を広げる～発達障害と不登校の理解と支援～(仮)」

昨年度に引き続き、NPO法人自閉症ピアリンクセンターここねっと常務理事・仙台市自閉症児者相談センター長 黒澤哲氏を今年度もお迎えします。発達障害と不登校の関係について、その原因を知り、必要な予防策とサポート方法について学びます。

◇会場◇岩手県立生涯学習推進センター オンライン同時開催（参加申込者限定オンデマンド配信有り）



11月27日(木) 子育て・家庭教育セミナー3

「親の脳を癒せば 子どもの脳は変わる

～マルトリートメントを防ぐ子育て～(仮)」

マルトリートメント（大人から子どもに対する避けたいかわり）を受けると、子どもの脳は傷つき、将来の心身の健康や行動に影響することがあります。マルトリートメントが引き起こす愛着（アタッチメント）障害や傷ついた子どもの脳を回復するための大人の関わり方について、今年度も福井大学 子どもの心の発達研究センター 教授 友田明美氏をお迎えし、詳しくお話を伺います。

◇You Tubeライブ配信◇（参加申込者限定オンデマンド配信有り）



令和7年度放課後の子どもの居場所指導者研修会

こちらもぜひどうぞ!



6月13日(金)

放課後の子どもの居場所指導者研修会1

「聴こう!子どもの心の声、 受け止めよう!子どもの本音」

子どもが話したいことを自ら話せるように支援したり、子どもの求めに応じて思いや意見を代わって表現したりする子どもアドボカシー活動が県内でも始まっています。一般社団法人ふたば 代表理事 櫻幸恵氏（元県立大学教授）をお迎えし、講義・演習により子どもアドボカシーについて学びます。

◇会場◇岩手県立生涯学習推進センター
オンライン同時開催



9月8日(月)

放課後の子どもの居場所指導者研修会2

「性暴力から子ども達を守るには(仮)」

昨今、子どもに対する性暴力があとを絶ちません。社会における性暴力の被害発生状況や「横断指針」について知り、現場で発生を防ぐために求められる対策や支援は何かを学びます。講師に上智大学 総合人間学部 心理学科 准教授 齋藤梓氏をお迎えし、ご講演いただきます。

◇会場◇岩手県立生涯学習推進センター オンライン同時開催
（参加申込者限定オンデマンド配信有り）



子育て支援や家庭教育の「現在(いま)」を知り、
子どもたちの「未来(これから)」をみんなで考えましょう。

岩手県立生涯学習推進センター Tel: 0198-27-4555 (担当: 湊・及川)

※事業の詳細は「まなびネットいわて」から見るができます→



(様式2)

令和7年度主要施策(概要)

公所名 岩手県立図書館

1 重点施策について(重点事項や前年度からの改善点等)

項目	内容
(1) 図書館機能の充実	「岩手県公立図書館等振興指針」の改訂を踏まえた今後の望ましい図書館運営等の検討、公衆送信サービスへの対応や電子図書館としての充実等の検討、読書バリアフリーへの対応等の検討
(2) 「I-ルーム」の利活用	震災・防災の学び合いスペース「I-ルーム」における児童生徒等の探究的な学びの支援、震災復興や本県の今日的な課題に対応した講演会・ワークショップ等「I-セミナー」の開催
(3) 学習機会の提供と読書活動の奨励	資料を活用した企画展等による学習の動機付け、読書週間における標語及び手づくり絵本の募集、学校等へのセット資料貸し出し
(4) 市町村支援及び連携	市町村訪問、市町村立図書館間の情報交換会の開催、協力貸出・レファレンス、図書館等職員を対象とした各種研修、市町村と連携したグループウェアによる情報共有
(5) 今日的課題への対応	若年層や子育て世代等の居場所づくり

2 事業計画について(重点事業2～3)

領域	事業名	趣旨・内容	期日・期間	対象・人数
新サービスの検討と当館の特色を生かした運営	図書館サービスの向上	1 今後の望ましい図書館運営等の検討 2 図書館のDX化(公衆送信サービス導入、電子図書館の充実等)推進に向けた検討 3 読書バリアフリー法を踏まえた図書の拡充等の検討 4 中高生や子育て世代等の居場所づくりに資する取組の実施	指針改訂後 通年 通年 通年 通年	
	図書館資料の収集と活用	1 望ましい蔵書構成を目指した計画的な資料収集 2 各種事業やレファレンスによる資料の有効活用	通年 通年	
	「I-ルーム」の運営	1 東日本大震災・自然災害・防災関連資料の収集 2 震災復興や今日的課題についての講演会、ワークショップ等の開催 3 震災・防災等関連資料セット貸出の実施 4 東日本大震災津波関連資料等のデジタル化 5 いわて防災復興研究会と連携した防災意識の向上	通年	

県民の読書活動の促進	読書週間による読書活動の促進	1 読書週間関連イベントの開催 (1) こどもの読書週間(全国) ≪4月23日～5月12日≫ (2) 読書週間(全国) ≪10月27日～11月9日≫ (3) 岩手の読書週間 ≪2月1日～2月14日≫ 2 読書推進標語及び手づくり絵本の募集・表彰 3 「読書をすすめるつどい」(表彰・講演等)の開催	左記期間中 左記期間中 左記期間中 6月～2月 2月7日	
市町村立図書館等への支援と連携の推進	市町村訪問等による支援	1 訪問による図書館運営状況の把握・助言・支援 2 市町村立図書館間の情報交換会の開催(2回) 3 協力貸出、セット貸出、相互貸借等による支援	7月～10月 7月～10月 通年	
	市町村職員の育成	1 県図書館協会との連携による各種研修の実施 (1) 新任図書館長等研修会 (2) 初任職員研修会(オンライン配信・集合研修) (3) 中堅職員研修会(オンライン配信・集合研修) (4) 専門研修(中央開催・地区開催) (5) 図書館職員・図書館協議会委員合同研修会 2 図書館等職員による調査研究の共同実施	4月23日 6月4日～28日 7月 9月 10月 9月～2月	
	学校等への支援、学習の場の提供	1 総合的な学習の時間・探求学習等の支援 2 学校図書館の本の整理や利用環境整備へのアドバイス 3 インターンシップ等の受入	通年	

1 重点施策について(重点事項や前年度からの改善点等)

項 目	内 容
(1) 調査研究活動と効果的な資料収集活動の推進	・ 本県の自然や人間の営みの証拠となる資料を継続的に収集し、将来へ引き継ぐ。 ・ 館活動の根幹である調査研究の成果を幅広く公表する。 ・ 公開承認施設の基準を満たし、適切な資料保管環境を維持するための活動を継続する。
(2) 利用者に親しまれる常設展示や魅力ある展覧会の開催	・ 調査研究の成果や収集資料の状況を展覧会やホームページ等で発表し、県民の生涯学習等を積極的に支援する。 ・ 来館者や各種事業参加者へのアンケートや出前講座、SNS 等を通じて県民のニーズを把握する。
(3) 学校教育と博物館との連携強化など教育普及活動の充実	・ 小中学校・高校への学習支援を積極的かつ継続的に行い、博物館利用に繋げる。 ・ 印刷物、ホームページ、SNS 等を活用し、教育普及活動事業や博学連携事業を広く県民に周知する。 ・ 学校教員と博物館職員との人的つながりも活かし業務連携を推進する。
(4) 被災文化財等の救援活動及び保存・管理体制の構築	・ 陸前高田市で被災した博物館資料の再生に向けて支援を継続する。 ・ 県内外における被災文化財の救出、保存・管理等の支援の取組を継続し、文化財の防災力向上等に貢献する。

2 事業計画について(重点事業 2～3)

領 域	事 業 名	趣 旨・内 容	期 日・期 間	対 象・人 数
展示	特別展示 (企画展・テーマ展)	「驚異の部屋」(博物館所蔵珍品・お宝大集合)	3/29～5/18	県民
		「星にねがいを～宇宙(そら)といわたの年代記」	6/14～8/17	
		「いわての酒造り」	9/27～12/7	
		「石を愉しむ展覧会」	1/10～3/8	
		「岩手の絶滅危惧種とネイチャーポジティブ」	3/28～5/17	
教育普及	講演会、観察会、講習等及び学校教育との連携	県民の学習意欲の高揚のための各種講演会等とともに、博物館の教育機能を活かした学校教育との連携事業を実施 (1) 講演会、地質・自然観察会、日曜講座等 (2) 教材用資料の貸出、出前講座・体験教室等	随時	県民
受託事業	科学分析保存処理受託事業	陸前高田市の東日本大震災津波被災資料の修復等	通年	陸前高田市立博物館
自主事業	博物館まつり	博物館をより身近に感じてもらい、来館を促す様々なイベントを実施	10/12(土)・13(日)	県民
文化庁助成	三陸希望遺産デジタルアーカイブ構築プロジェクト	・ 三陸沿岸で採集した古生物の化石を 3D データ化・デジタルアーカイブ構築 ・ 社会への成果還元の取組とノウハウの共有	通年	県民、連携館等

(様式2)

令和7年度主要施策(概要)

公所名 岩手県立美術館

1 重点施策について(重点事項や前年度からの改善点等)

項 目	内 容
1 県民の共通財産としての将来への継承	県民のニーズに沿った岩手県らしい、高い集客性が見込める企画展等を開催し、多くの県民に国内外の優れた美術作品鑑賞の機会を提供し、県民の文化芸術に対する理解を深める。また、各展覧会に関連付けた講座等を実施し、県民の文化芸術に対する興味・関心を高める。 (1)企画展及びコレクション展の観覧者数(61,000人)の達成 (2)教育普及事業の参加者数(8,000人)の達成 (3)来館者の総合満足度90%以上の達成
2 調査・研究活動等の推進による本県評価の向上	文化芸術振興の拠点的功能を担う施設として、スタッフの人材育成・力量向上を図り、美術品の収集、調査・研究、展示・普及活動等を総合的に推進する。 (1)美術品の計画的な収集、修復保存 (2)調査・研修成果等に基づく岩手発の独自企画展開催 (3)計画的な美術史研究や新規の教育事業開発の推進
3 県民が等しく鑑賞・参加・創造できる環境の整備	県民が優れた美術品の鑑賞や制作活動を体験できるよう環境を整備する。 (1)効果的で訴求力のある広報活動の展開 (2)県民ニーズに沿った魅力ある自主事業の実施 (3)収蔵作品データの公開利用の推進

2 事業計画について(重点事業2～3)

領 域	事 業 名	趣 旨・内 容	期日・期間	対象・人数
展示事業	1 企画展	企画展開催 (1)19・20世紀の芸術家とポスター創作において自由なる競創— (2)Perfume COSTUME MUSEUM パフュームコスチュームミュージアム (3)澤田哲郎展 (4)アートフェスタ2025 (5)レオ・レオーニと仲間たち	4/12～6/8 6/28～9/28 10/15～11/30 12/13～1/4 1/17～3/22	一般
	2 コレクション展	所蔵作品を広く公開、郷土ゆかりの作家・作品を紹介するコレクション展開催 (1)第1期特集 萬鐵五郎 みづゑ(水彩画)の世界 (2)第2期特集 新収蔵品公開(舟越桂中心) (3)第3期特集 新収蔵品公開(菅木志雄中心) (4)第4期特集 福田繁雄	第1～4期 4/25～7/21 7/26～10/19 10/25～1/25 1/31～3/22	
教育普及活動事業	1 展示関連	ギャラリートーク、関連講座等	通年	一般
	2 美術普及	スタジオプログラム、美術講座等		※内容により対象限定
	3 教育連携	出前授業(リモート授業と並行実施)		
	4 来館者対応	一般団体、学校団体		

(様式 2)

令和 7 年度主要施策 (概要)

公所名 岩手県立県南青少年の家

1 重点施策について(重点事項や前年度からの改善点等)

項 目	内 容
・ 社会教育と学校教育、地域・関係機関との連携	(1) 利用団体の研修目的達成のための プログラム等相談の充実 (2) 関連施設・団体との連携 による魅力的な事業の展開 (県南広域振興局や民間団体などとのタイアップによる事業展開、大林城クイズラリーなど)
・ 生涯学習支援を意識した事業の組立とプログラム開発	(1) 利用者の声や主催事業の経験を生かしたアクティビティ拡充 (幼児プログラムの開発、葉っぱのハンカチ、PA:プロジェクトアドベンチャー) (2) 直接生活に生きる知識を盛り込んだプログラム構成 (金ケ崎町中央生涯教育センター家庭教育支援事業でのロープワーク、かるがも親子体験教室での防災プログラムなど) (3) 高校及び大学、専門学校、放課後児童クラブ、適応指導教室、事業を介した 利用促進の呼びかけ (主催事業「県南は～とふる Day」への子ども食堂の利用アピールなど)
・ 参加者の安全・安心の確保	(1) 施設・設備の点検と安全の確保 および計画的な補修・整備 (2) 熊や蜂、ツタウルシなどの 危険動植物等 、利用者への タイムリーな情報提供 と職員の巡回

2 事業計画について(重点事業 2～3)

領 域	事 業 名	趣 旨・内 容	期 日・期 間	対 象・人 数
受託	水と緑のフレンドシップ	・ 異年齢で構成される集団による共同生活と様々な体験活動を通し、主体的に行動し逞しく生きようとする心を育む(野外炊事、テント泊、登山、沢登り、創作など)	7 月 12～13 日 7 月 27～30 日	小学 5 年生～ 中学生 20 名
受託	かるがも親子体験教室 【親子宿泊体験】	・ 防災学習・体験を通して、親子の共同体験や交流活動を行い、防災の知識を深めると共に親子間の理解と関係を深める。また、家庭教育学習会を通して、子育てについて学び、保護者同士の仲間作りを促進する。	10 月 25～26 日	小学生 1～3 年生の子どもをもつ家族 15 家族 30 名
受託	県南は一とふる♡Day 【スクラム編】	・ 日常の学習と異なる活動の提供を通して、 体験の機会を拡大 させるとともに 参加者相互の交流 を図る。 (創作、ニュースポーツ体験等) ※【チャレンジ編】は通年(内容はニュースポーツや創作が中心。出前依頼可能。学校不適応児童生徒対象)	12 月 7 日	特別支援学校在籍児童と保護者 10 家族 20 名

(様式 2)

令和 7 年度主要施策 (概要)

公所名 岩手県立陸中海岸青少年の家

1 重点施策について(重点事項や前年度からの改善点等)

項 目	内 容
沿岸地域(青少年教育)ボランティアの育成	(1) 沿岸地域青少年教育ボランティアの拡充及び地域在住学生の活躍による地域コミュニティの活性化をねらいとした更なる周知活動の展開
家庭教育及び子育て支援	(1) 各事業の実施における県社会教育行政施策の事業内容への反映 (2) 読書活動、家庭教育及び子育て支援に関する活動や講話等を取り入れた事業構成での実施
教育振興運動への取組	(1) 全県共通課題「体験活動の充実」への取組としての沿岸地域各市町村担当部局との連携及び協働による教育振興運動実施団体への周知及び指導依頼への対応 (2) 教育振興運動の促進に繋がるハートフルキャラバン利用の拡充

2 事業計画について(重点事業 2～3)

領 域	事 業 名	趣 旨・内 容	期日・期間	対象・人数
受託	アドバイザースタッフセミナー	・当所主催小学生宿泊事業実施におけるアドバイザーを育成するための、危機管理講習、マリンスポーツ体験及び活動全般における安全指導研修の実施	令和 7 年 7 月 12 日(土)	対象：高校生・大学生・一般 定員：10 名程度
受託	ワンデイ親子キャンプ	・様々な体験活動をとおして家族のふれあいを深めるとともに、防災の意識を高めるための、災害対策につながるキャンプ活動、火起こし体験、焚き火、水量限定クッキング、ロケットストーブづくり及びハザードマップを使った学習等を構想中	令和 7 年 10 月 11 日(土)	対象：小中学生の子をもつ親子 定員：10 家族程度
受託	キャラバン(出前講座)」 ・ハートフルキャラバン ・やまびこキャラバン	・不登校及び引きこもり傾向にある児童・生徒と、幼児から一般の 2 種類を対象として、創作体験活動、ニュースポーツ体験、もちつき体験及び学習支援等を実施	通年	ハートフルキャラバンは定員なし やまびこキャラバンは、定員が概ね 10 名以上

(様式2)

令和7年度主要施策(概要)

公所名 岩手県立県北青少年の家

1 重点施策について(重点事項や前年度からの改善点等)

項目	内容
青少年の健全育成・生涯学習の振興のため、ねらいを焦点化した研修活動、主催事業の充実	(1) 自然環境や施設の特性を生かした研修内容の充実、団体の計画に対応した活動支援の充実 ・本施設の自然環境や施設の特性(プラネタリウム・スケート場)を活かした研修プログラムの充実 ・団体等の研修目的や活動計画に対応した適切な活動支援 (2) ねらいをとらえた魅力ある主催授業の展開 ・不登校対策、地域人材ボラ養成、復興・防災教育などの受託事業・自主事業の展開。
効果的な周知・広報活動の充実、利用者への適切な対応	(1) 利用者層の拡大、多様な利用形態への対応、利用者のニーズへの柔軟な対応及び体験活動の場の提供 (2) 効果的な研修日程(プログラム)の作成に係る指導者への適切な助言と効率的で正確な連絡調整 (3) 研修者に主体性を育む体験プログラムの(内容、用具、設備、フィールド)整備と指導の工夫 (4) 団体の指導者や保護者に(新たな)主体的なニーズをつくる、多彩で効果的な体験活動の理解伸張 (5) 新規利用者層の開拓と、団体が様々な形で繰り返し利用することを促す取り組み ・広告活動の充実 各団体への利用の働きかけ 各団体との連携の強化
職員の研修機会の充実とOODAを活用した業務の改善	(1) 4半期毎の施設長会議や職員会議での月毎、主催事業毎の成果と課題の整理、中期的な目標を設定した業務改善、OODAによる日常的即応的な業務改善 (2) 「明るく、清潔感があり、使いやすく、親しみを感じる」施設を目指した施設運営の改善
安全の保障と適切かつ積極的な危機管理	(1) 感染症・食中毒の予防・防止のための適切な対応 (2) 点検と補修・修繕による事故の未然防止 (3) 適切な指導支援による事故の未然防止 (4) 事故発生時の適切な対応

2 事業計画について（重点事業2～3）

領 域	事 業 名	趣 旨・内 容	期 日・期 間	対 象・人 数
受託	しゅくだいバス①② ①夏休み ②冬休みに実施	・長期休業中の小学生が宿題をしたり、自由時間を過ごしたりするための居場所づくりを目的に、しゅくだいタイム、お楽しみタイム、昼食の実施	夏季・冬季休業	二戸近隣小学校の児童 各回30名程度
受託	親子でデイキャンプ	・幼児（年長）から小学校1年生児童及びその保護者が様々な自然体験活動を通し、親子の交流を深めるとともに、親子同士の交流を図るための、テント設営、焚火体験及び調理体験、森のようちえん、子育て交流セミナーの実施	①6月28日（土） ②6月29日（日）	各回10家族 30名程度
受託	ステラパル冬遊塾	・異年齢で構成された集団が、冬ならではの野外活動を通して、自主性、忍耐力、協調性を育むと共に、たくましく生きようとする心の育成を図るための、館内泊、自然体験活動、ウインタースポーツ体験、創作活動、プラネタリウム鑑賞等の実施 ※ボランティア実践セミナーを午前中に開催		

1 重点施策について(重点事項や前年度からの改善点等)

項 目	内 容
(1)施設利用の拡充	○利用団体の円滑な受入と利便性の向上 ○利用者アンケートの分析等に基づいたニーズ把握の精度向上 ○広報活動の拡充(SNS等の活用促進等)
(2)施設環境の整備・充実	○施設設備に係る継続的・適時的な安全管理の徹底 ○敷地内全般における環境の整備(草刈、除草、害虫駆除等) ○委託業者との円滑な連携の推進(食堂、清掃、警備等) ○施設管理の実態整理及び生涯学習文化財課との連携促進
(3)主催事業の充実	○自然体験活動事業(「ドラマチック海遊塾」「野活キッズ」等) ○家庭教育関連事業(「ファミリーキャンプ」「通学宿泊合宿」等) ○指導者養成事業(「ボランティアスタッフ養成講座」等) ○復興防災事業(「震災・防災学習現地研修会」「親子防災教室」等) ○スポーツ推進事業(「スポーツ教室」「SUP体験会」等)
(4)研修プログラムの充実	○自然体験活動(「野外炊事」「テント泊」「いかだ体験」等) ○スポーツ活動(「テニス」「バレーボール」「ニュースポーツ」等) ○復興・防災教育(「防災ウォッチング」「避難所運営ゲーム」等)

2 事業計画について(重点事業2～3)

領 域	事 業 名	趣 旨・内 容	期日・期間	対象・人数
自然体験活動事業	ドラマチック海遊塾	海をテーマとした活動を通し、本県の自然の素晴らしさを再発見する。また、初めて集う仲間達と4日間をともに生活する中で、協力することの大切さや仲間を思いやる気持ちを育む。	7/27(日) ～30(水)	小学5年 ～中学生 30名
復興防災事業	震災・防災学習現地研修会	復興教育担当教員等を対象とした震災・防災学習プログラムに係る現地研修会を実施することにより、学校教育と連携した震災伝承と防災文化の醸成を図る。 ※東日本大震災津波伝承館との連携	8/7(木)	教員 20名程度
家庭教育関連事業	ファミリーキャンプ in 広田	親子で自然や防災に関する体験活動を通し、家族の絆を深めたり、災害時の行動について考えたりする機会とする。	初級編 8/30(土) ～31(日) 防災編 9/27(土) ～28(日)	小学生とその家族 各回とも 10家族 30名程度